

令和6年度
市政運営方針

米 沢 市

令和6年市議会3月定例会の開会に当たり、私の市政運営に関する所信の一端と新年度の予算概要及び主要施策について御説明申し上げます。

1 はじめに

昨年11月の選挙におきまして、市民の皆様の負託を受け、第38代米沢市長として市政をお預かりすることとなりました。市民の命と暮らしを守る責任の重さと使命感に身の引き締まる思いです。皆様との対話を大切にしながら、本市の発展のため、誠心誠意、全力で職責を果たしてまいります。

私が皆様と一緒に目指す米沢の姿は、子どもたちに自信を持って笑顔で、「米沢いべ、こさこい」と言えるまちです。ひと、モノ、お金が出ていくまちから、集まるまちへ。子どもの数が増え、あらゆる産業で稼ぐ力があり、市民の所得が増え、誰もが暮らしやすさを実感できる、「好循環の米沢」の実現に向けた施策を推進してまいります。

私たちは今、時代の大きな転換期に直面しています。急速に進行している人口減少への対応は、もはや一刻の猶予もない状況です。労働力不足も深刻な問題となっています。国際的な原油・原材料価格の上昇とそれに伴う物価の高騰が続いているほか、一昨年の置賜地域を襲った豪雨や昨年の記録的な猛暑等、異常気象・自然災害が頻発化しています。人口減少に歯止めをかけ、市民生活と地域経済を守り抜き、新しい米沢の未来を築くため、新年度は、次の三つの重点的な取組を推進してまいります。

第一に、子育て・教育の米沢の実現です。おいしく安全な「食のまち米沢の給食」を実現するため、給食に地元産の食材をできる限り使用することで安全・安心な給食を提供し、児童生徒への食育を推進するとともに、4月から置賜地域で初めて小中学校の給食を完全無償化します。小中学校における熱中症対策として、現在、県の補助金を活用し、中学校体育館への冷暖房機器の導入を進めているところですが、小学校体育館についても、本市独自の取組として同様の機器を導入します。働く子育て世代

を応援するため、放課後児童クラブ利用料の無償化の検討を進めます。置賜地域一円から子どもたちが集まり、地域の教育水準を高める県立中高一貫教育校の本市への設置に向け、関係機関に働きかけるとともに、市民意識の醸成を図っていきます。子どもは本市の未来を創るかけがえのない存在です。一人ひとりが心身ともに健やかに成長できるよう、子どもと子育て世帯が抱える悩みに寄り添い、切れ目のない支援を充実させてまいります。

第二に、稼ぐ力があり市民の所得が増える米沢の実現です。新しい産業団地の整備に向けた取組を進め、魅力ある雇用の場を創ります。トップセールスと発信力を強化し、米沢産品を全国に向けて売り込むとともに、民間事業者と連携するなど、体制を整備することでふるさと応援寄附金の拡大を図ります。本市産業を発展させる基盤として山形新幹線の福島・米沢間トンネル整備の早期事業化をはじめ、国道121号の高規格化や都市計画道路万世橋成島線の早期着工、JR米坂線の早期全線復旧に向け、置賜地域の中心市として、国・県との連携をより強固にし、要望活動を行います。再生可能エネルギーの地産地消や地元企業を優先する公共調達を推進し、お金が地域内で循環する仕組みを構築していきます。「地域企業・地域の事業者の発展なくして、米沢の発展なし」です。これらを実現するために、様々な現場を訪れ、対話を重ね、皆様に寄り添った成長支援等を実行し、課題の解決につなげてまいります。

第三に、誰もが暮らしやすい米沢の実現です。現在、市内の診療所における医師の高齢化とそれに伴う医業承継が喫緊の課題です。新たに診療所開設支援補助金を創設し、新年度は子育て世帯からの要望が多い小児科について、開業医の誘致に取り組みます。市立病院の医師確保については、私が先頭に立って大学医局等への要望活動を行うとともに、民間の医師紹介サービスの利用や奨学資金貸付制度の活用等の取組を進めます。市民の交通手段を確保するため、新たに南原地区と築沢地区において乗合タクシーの実証運行を開始するとともに、市内全域への運行エリア拡大に向けた検討を行います。市民要望の多い雪対策に関しては、除雪車運行管理システムの導入に併

せた除雪費の時間精算制への移行とともに、除雪オペレーターの育成支援制度の継続や除雪事業者との意見交換を踏まえた体制の構築により、きめ細かな道路除排雪を行うほか、ひとり親家庭に対して新たに雪下ろし助成事業を実施し、支援の充実を図ります。

先人から受け継いだ米沢をより良い形にして次の世代に引き継ぐことは、今を生きる私たちに課せられた使命です。そのためにも、子育て・教育を県内最高水準に引き上げ、市民の所得が増える環境をつくり、雪に強く、移動しやすく、誰もが暮らしやすい米沢の実現に向け、取り組んでいく必要があります。まちづくりの主役は市民の皆様一人ひとりです。子どもたちに誇れる米沢を市民の皆様とともに、知恵を出し、力を合わせ、心を合わせ、創り上げてまいります。

2 新年度予算案の概要

次に、新年度に向け編成した予算案の概要について、御説明申し上げます。

なお、新年度予算は、私が初めて編成した予算であり、本市の飛躍的発展に向けた第一歩にしたいとの思いを込め、「好循環の米沢 スタートアップ予算」と命名しました。

新年度の一般会計予算総額は、対前年度当初予算比で34億1千万円、8.4%増の440億3千万円を計上しました。前年度よりも大幅な増となっており、令和2年度から5年連続で400億円を超えるとともに、過去最高の予算規模となっています。

歳入歳出それぞれについて御説明いたしますと、歳入におきましては、今年度の収入見込額や景気動向等を勘案して、市税や地方消費税交付金は減収を見込みつつも、国・県支出金の確保や元利償還金の一部が地方交付税で措置される有利な地方債の活用等で財源確保を図るとともに、歳出におきましては、既存事業の見直し等のスクラップに取り組みながら、「好循環の米沢」の実現に向けた施策を着実に推進していくために必要な事業費を計上したところです。なお、不足する財源については、財政

調整基金等の基金の取崩しによって対応することとしました。

特別会計は、9会計の合計で約184億8千5百万円、企業会計は、3会計の合計で約213億2千4百万円を計上しました。

3 令和6年度の主要施策

次に、新年度に取り組む主な施策について、まちづくり総合計画の基本目標の柱に沿って御説明申し上げます。

(1) 挑戦し続ける活力ある産業のまちづくり

初めに、挑戦し続ける活力ある産業のまちづくりについて申し上げます。

商工業については、本市経済の持続的な発展を目指すため、中小企業の経営基盤の安定を図るとともに、産学官金が連携し、販路開拓や新商品・製品開発に向けた取組を進めることで、地元企業の成長を後押しします。「米沢ブランド戦略事業」の推進により、本市全体の魅力をさらに高めるほか、ものづくり企業の高付加価値化や山形大学との連携による新産業創出に取り組めます。企業立地や若者を始めとした創業の促進を図るほか、令和7年度の米沢鶴城高校開校に向け、高校生の地元定着を進める取組を引き続き支援し、人材確保と定着を促進します。

観光業については、「米沢市版DMO」の運営を改善し、各観光団体の役割を明確化することで、効率的な観光振興体制の構築や実践的な観光マネジメントに取り組むとともに、コロナ禍以降回復しつつあるインバウンド客をターゲットとした「米沢型インバウンド推進事業」により、新たな旅行商品を造成するなど、地域の稼ぐ力を最大限に引き出します。「最上川源流よねぎわ紅花プロジェクト」や「西吾妻山×天元台高原×白布温泉エリア リボーンプロジェクト」を引き続き行うとともに、メディアコンテンツを活用した誘客促進事業等を実施することで、本市の多様な地域資源を活用した観光基盤の整備と誘客宣伝を推進します。

農業については、新年度に第2次農業振興計画を策定し、今後10年間の農業振興の方針を定めます。併せて、農地の集約化等を進めるため、現行の人・農地プランを見直して新たな地域計画を策定し、農業経営の効率化を目指します。農業の担い手の育成・支援を強化するとともに、安全で良質な付加価値の高い農畜産物の生産を推進します。現在、有害鳥獣による被害が深刻化しているため、これまでの施策を検証した上で、地域と連携した防除、環境整備、捕獲を行い、中山間地農業及び集落の維持につなげていきます。

林業については、緑とのふれあいを通じた環境保全の心を育むとともに、公共施設、住宅等への地元木材の利用を促進します。森林環境譲与税の活用を通し、森林経営管理制度の運用に向けた意向調査を新年度から実施し、森林の利活用を進め、地球温暖化防止と林業・木材産業の活性化を図ります。

(2) 郷土をつくる人材が育つ、教育と文化のまちづくり

次に、郷土をつくる人材が育つ、教育と文化のまちづくりについて申し上げます。

学校教育については、南成中学校の建設工事に着手するとともに、第一中学校と第五中学校の統合のために必要な整備を推進します。統合中学校及び広幡・六郷・塩井の統合小学校の開校に向けた各種取組を行います。中学生の充実したスポーツ・文化活動の場を確保するため、地域のスポーツ・芸術文化団体と連携し、休日における新たな活動の場を構築します。閉所した平日夜間・休日診療所のスペースに、4月から不登校や発達障がい等の児童生徒に寄り添う適応指導教室を移転させ、より包括的に支援する体制を整備します。

社会教育については、市立米沢図書館で子どもたちが借りた本を記録できる読書通帳機を更新するとともに、中・高校生を対象に性や妊娠・出産への理解を深め、命の尊さについて学ぶ講座を引き続き実施し、学習機会の創出や青少年教育の充実を図ります。

文化の振興については、国指定史跡上杉治憲敬師郊迎跡の保存修理工事をはじめ、米沢藩の貴重な史料である上杉文書や伊達氏にもゆかりがある国指定史跡舘山城跡の調査を継続し、様々な歴史的資産の保存と活用を進めます。

スポーツの振興については、市営体育館アリーナ床の改修、市営八幡原体育館受付用事務室等の新設を行い、スポーツ施設の充実を図ります。FUN+WALK（ファンプラスウォーク）推進事業等を引き続き実施し、スポーツを通じた共生社会の実現と地域活力の向上に取り組みます。

学園都市については、学園都市推進協議会等の活動を通し、大学や学生を継続して支援するとともに、若者が本市で学び、住みたいと思えるまちづくりや市外に転出しても本市と関わり続けるホームタウン化を目指し、地域・市民と大学・学生との交流を促進します。

(3) 子育てと健康長寿を支えるまちづくり

次に、子育てと健康長寿を支えるまちづくりについて申し上げます。

子育て支援については、4月からすこやかセンター内に、全ての妊産婦、子育て世帯、子どもに対して一体的に相談支援を行う「こども家庭センター」を設置します。第3期子ども・子育て支援事業計画を策定し、誰もが安心して子どもを産み育てられる環境を目指します。

健康長寿の推進については、減塩や運動習慣の定着化、健診の定期受診による生活習慣病の予防や健康増進の取組のほか、近年、若年者の自殺者が全国的に増加しているため、新たに中学生を対象にしたSOSの出し方講座を実施します。市民の健康づくりを応援する事業者や関係機関を登録する「よねざわ健康長寿応援団」の周知強化及び登録者数の増加を図ります。

高齢者福祉については、適切な介護知識や介護サービスを周知するため、要介護者やその家族等を対象に新たに介護教室を開催するほか、全ての地域包括支援センター

において、住民主体の通いの場を立ち上げ、生きがいくくりと地域で暮らすための支援を継続して行います。

地域福祉については、障がい者が地域で安心して生活できるよう、新たに緊急時等に対応する民間事業所の居室を確保するとともに、相談や入所体験をコーディネートする取組を実施します。ひきこもり等の就労や社会参加を促進するため、NPO法人と連携し、新たに「就労体験・就労訓練先の開拓・マッチング事業」を行うことにより、誰にでも「居場所」と「出番」のある地域共生社会の実現を目指します。

医療環境については、昨年同時開院した米沢市立病院と三友堂病院との機能分化・医療連携を引き続き推進し、地域医療連携推進法人よねざわヘルスケアネットの枠組で、医療人材の交流や医療機器の共同利用、診療に必要な物品の共同購入等を進め、経営の健全化や効率化を図ります。4月から始まる医師の働き方改革に対応するため、医師や看護師の労働時間の短縮を進め、負担軽減に努めるとともに、院内の夜間保育を継続するなど働きやすい環境を整備します。

(4) 自然と都市の魅力が調和し、賑わいと交流を促すまちづくり

次に、自然と都市の魅力を調和し、賑わいと交流を促すまちづくりについて申し上げます。

住環境の整備については、公営住宅長寿命化計画を改定し、窪田団地の外壁改修等の計画的かつ効率的な施設改善を図るとともに、民間事業者と連携し、住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給を促進します。空き家が増加していることから、新たなマッチング支援を行い、空き家・空き地の流通・利活用を促進するとともに、適正に管理されていない空き家の所有者への指導を強化します。

道路の整備については、平和通りの一方通行解除や西條天満公園西側の市道バリアフリー化により、まちなかの回遊性や利便性、交流機能を高めるほか、国道287号米沢川西バイパスの早期開通に向け、県への働きかけを強化します。

公共交通については、4月から循環バス南回り路線を学園都市線に名称変更した上で、ダイヤとルートを見直し、学生等のバス利用者の利便性向上を図るほか、自家用車を所有していない通勤者の交通手段を確保するため、市民バス万世線に八幡原中核工業団地内を経由するルートを追加します。

上水道については、老朽化した舘山浄水場を廃止し、県と連携して笹野浄水場からの受水量を増量するための施設整備を継続するほか、市立病院等の重要給水施設までの配水管の耐震化を計画的に推進し、災害に強く安定的な水道水の供給体制の構築に努めます。

下水道については、米沢・南陽の二つのし尿処理施設の廃止に向け、米沢浄水管理センター内にし尿受入施設を整備する事業を進め、令和7年度の供用開始を目指します。雨水対策として、昨今の豪雨災害等を踏まえ、内水浸水への備えを強化するため、浸水シミュレーションに必要となる現況調査等を行います。

環境対策については、ゼロカーボンシティの実現に向け、再生可能エネルギー・省エネルギーの取組を推進するため、モデル地域における官民が連携した多様な取組を通し、国の脱炭素先行地域に選定されることを目指します。シンポジウムや子どもたちへの環境教育を継続し、本市全体の意識醸成を図ります。昨年の記録的な猛暑を踏まえ、住民への熱中症予防に関する普及啓発を進めます。

(5) 安全安心に暮らせるまちづくり

次に、安全安心に暮らせるまちづくりについて申し上げます。

災害対策については、消防団員の処遇改善や団員の確保を図るため、報酬及び出動手当を拡充するほか、消防団に軽資機材搬送車等を計画的に配備します。自主防災組織の結成率を高めるため、新たに地区単位での連合組織を創設するなど、共助力を高める仕組みづくりを行います。

犯罪や消費者被害の対策については、犯罪被害者等への見舞金制度の構築や講演会

の開催を通し、犯罪被害者の適正な支援につながる体制づくりに取り組むほか、高齢者をはじめとした消費者被害が後を絶たないため、昨年発足した消費者安全確保地域協議会を活用した情報共有により引き続き被害防止を図ります。

(6) 持続可能なまちづくり（協働・行政経営）

次に、持続可能なまちづくりについて申し上げます。

交流の促進については、国際交流の施策として、モーゼスレイク市との短期交換留学生事業を再開するほか、本市に住む外国人の生活や就労を支援するため、国際交流協会と連携し、日本語教室の充実を図ります。移住・定住の施策として、お試し暮らし体験の内容を拡充し、移住希望者のニーズに沿った体験期間や内容に見直すほか、県と連携して若者定着奨学金の返還支援対象を日本学生支援機構の第2種奨学金貸与者まで拡大し、大学生を始めとした若者のUターンを推進します。

地域におけるまちづくりについては、コミュニティセンターを核とした住民主体の地域づくりを推進するため、住民が自ら考え、話し合う取組を支援します。塩井及び広幡コミュニティセンターの建替事業を継続するとともに、愛宕及び六郷コミュニティセンターの空調設備を改修し、全てのコミュニティセンター多目的ホールへの空調設備設置を完了させます。

市政情報の発信については、新たに魅力推進課を設置し、本市の多様な魅力を磨き上げながら情報発信力を強化していきます。

健全な行政経営については、公共施設等総合管理計画個別施設計画を改定し、公共施設等の総合的な管理・運営を図ります。現在のまちづくり総合計画が令和7年度で終期を迎えることから、新年度は市民等へのアンケートを実施するとともに、まちづくりの指針となる基本構想や基本計画の検討を行い、令和8年度から10年間の本市まちづくりの方向性を示す総合計画を令和7年度までに策定します。

4 おわりに（結び）

私はこれまで市民一人ひとりの声を大切に伺ってきました。「米沢愛」を原動力に、皆様との対話を重ね、実行し、その情報を広く発信することは、私が市政を運営する上で最も基本としている姿勢です。今後も、本市が活力あるまちであり続けるために、提案と改善を繰り返していく必要があります。歴史と伝統ある米沢が、変わらずに残るためにも、変わらなければなりません。現場主義を徹底し、世代を越え、官民の壁を越え、「オール米沢」で施策を着実に実行していくことが市政を預かる私の使命です。

明日の米沢は私たちの力で切り拓いていく。新年度は、本市の持つ多様な魅力をさらに高め、多くの人に選ばれる好循環の米沢を築く第一歩の年となります。子どもたちに自信を持って笑顔で誇れる米沢を皆様とともに創り上げてまいります。

議員各位をはじめ、市民の皆様の温かい御理解と御協力を心からお願い申し上げ、市政運営方針といたします。